

## 第14回（令和元年度）議会報告会での意見・要望等（区別）

開催内容 第1部 議会報告 9月定例会各常任委員会報告  
決算特別委員会各分科会報告  
第2部 意見交換 テーマ：超高齢社会のあり方

○：参加者の発言要旨  
→：議員の答弁要旨

### 北 区

#### <第1部 議会報告>

○議会報告会の内容（9月定例会の審査概要）は、議員それぞれ立場が違う意見を出されたと思うが、本日はどういう立場で参加しているのか。

→それぞれの議員が議会の場で徹底的に議論し、最終的には多数決で下した結果であるので、結果は尊重しながら、反対意見もあったことを報告に掲載させていただいている。

○全部は載せられないとしても、どういう反対意見があったかをもっと聞きたい。よく分からないから議会報告を聞きに来たという人のためにも要望したい。

→次回以降の参考にさせていただきたい。

○今回で14回目ということなのだが、人数があまりにも少ない（6名）のでは。

→今年は選挙があったため1回の開催だが、毎年度2回行っている。テーマを例えば「農業」や「教育」と設定して、そのテーマに特化した対象者を集めた回もあったが、今回は広くお集まりいただくということで今回のテーマにした。毎年試行錯誤しながら開催しているが、広く市民への周知を図っていきたい。

#### <第2部 意見交換>

○資料は誰の作成か。

→市役所をはじめ様々な行政機関の数値等も活用し、最終的には議会広報委員会などで作成している。

○免許返納について、件数（人数）で報告されているが、高齢者は増加しているのだから数で把握するよりも、（返納）率で把握した方が、高齢者の交通事故発生に関しては有用と考えるが。

→当資料は新潟県警のデータであるが、今後はより有用な形での把握に努力していく。

○健康寿命について、各区の報告だけではなく、他の区がどんなことをしているか、市全体が何を行っているか、報告してほしい。

→市で管理しているビッグデータを駆使し、各区の違い（特性）を把握して、それぞれに対応した介護予防策を打っている。フレイル予防についてはまだ2ヶ所のモデル地区での実施ではあるが、今後市全体で特に取り組んでいく方向。

○平均余命について、65歳からの男女差はもっと大きかったように思うが。

→超高齢社会というテーマのため、65歳からの平均余命・健康寿命とさせていただいた。新潟市のビッグデータからの数値であるが、ご指摘の差は全国と新潟市の差と考えられる。

○BRTについて、議会はどのように考えているか。

→主に環境建設常任委員会で討議。議会だけではなく市長も改善したい意向は強いが、相手が民間企業で協定を結んでいるため、対応に時間がかかっている。

## 東 区

### <第1部 議会報告>

○山の下中学校の新入生の自転車通学の際に、市の方からヘルメットを補助していたが、事業見直しで44億円削減の中で170万円がゼロになった。これをなんとか検討いただきたい。

→予算委員会の折りに議論が出たが、非常に生活に密着した部分も一律に削減された。廃止したばかりなので、今後単独で復活は難しいが、就学援助事業の方で救済が可能かどうか検討させていただき、また執行部へも伝えたいと思う。

○インフルエンザワクチンの助成金削減は、健康面からも高齢者が増えているので検討いただき、なんとか予算化してほしい。

→議会でもかなりの議論があったが、予防接種にも様々な種類があり、許される限り全ての予防接種にできる限りの調整を、として議論してきたが、インフルエンザについては少し消極的な状況だ。特に高齢者の方はインフルエンザを原因とした肺炎など重篤な状態になる方もいるため、より議論を深め慎重に審議してできるだけ皆様の希望に添うような活路を見いだして行きたい。

○資料について、例えば、分科会に何人所属しているのか？意見が分科会の総意として出ているのか、1人2人の意見として載っているのか疑問。今後どの様に展開していくのか読み取れない。

→資料の主な意見については各委員長の責任において作っている。例えば10人から意見が出て、賛成・反対に分かれた場合はバランス良く取り入れるように作っている。市議会は委員会を開いた後、本会議で委員長報告がある。それに基づいてなるべく意見に偏りが無いよう資料を作っているが、ご指摘の通り全ての意見ということではないので、HP等で議事録も比較的簡単に見られるので、ご覧いただき議会の方へお問い合わせいただきたい。

○なぜ新潟市は財政難に陥ったのか。

→財政の健全化について議会の答弁を聞いていると、大型事業の新潟駅連続立体交差事業、中央環状道路の整備、合併建設計画。そのことが主な原因との答弁をしている。それによって、集中改革プランを当面3年間で方向性を出して、改善しようではないかというような形で進めている。

→財政難という言葉が使われはじめたのは、予算編成時に不足分を基金から取り崩して補填し、なんとか予算運営をしていたが、合併時に360億円あった基金が14年経って33億円と底をつく状態になってしまってからである。予算編成時に基金の取り崩しができなくなったということで大変な事態となった。いま基金の積み増しを一生懸命する集中改革プランをやっている。

## <第2部 意見交換>

○免許返納について、今のBRTでは駄目でもう3年延長した。事故のないよう必死になって運転するしかない。全国の市を調べたら盛岡市も同じようなバス対策をしたが、ここはゾーン方式。利用度の高い所とそうでない所をバスの投入車両を変えただけで税金を一切使っていない。どうして成功したか市の方に確認したところ、市民からの要望で市が調整役となり、県、市、県警、さらに企業や商工会議所を入れて検討した結果、今のゾーン方式のシステムになった。いつでも市民の要望で変更できる。BRTはそうそう変更できない。もう少し柔軟にしてほしい。通院、本町・古町への買い物、友達に会うためにもぜひなんとかしてほしいと地域からの声をもらっている。改善の道が全くないので、扉を開けていただきたい。

→市としても10月にBRTの総括を行った。その中で市民の理解が置き去りになっているのではないかと。また商業施設に対してBRTを導入することによって人が集まらなくなった、乗り換えの利便性の低下が総括で挙げられている。BRTも当初はゾーン計画だったが、やはり乗り換える部分が市民理解がまだまだ得られていないし、利便性についても追及していかなくてはならない。

○市は全国の政令市の中で住民1人あたりの建物保有面積が一番だが、維持費がかなり財政を圧迫している。今後どうしていくのか。

→合併建設計画は約束だから守らなくてはならない。結果的には古いものや類似的なものは同一にするということもないので、早急な対策を取らなくてはいけない。市の制度が今まで悪かったと思うし、市民へのきちんとした説明もなかった。

○ロシアの新体操の事前合宿が東総合スポーツセンターに決まったが、合宿費2,500万円、3週間で1日120万円かかるがこれは何に使うのか。

→オリンピック用具の運搬費、選手の移動交通費といった諸経費。大勢の選手が来るといことでご理解いただきたい。

→ロシアの選手団は金メダル候補でかなり注目をされている。地域の皆さんに誇りを残せるようなものを検討してほしいと意見も出された。運搬費はオリンピックで使う基準のマットが必要で、それを購入するとさらに費用がかかるため、この決断となった。地域の皆様、市民の皆様と応援ができるようにと担当者へも話してあるので、地域の皆様の声を聞かせていただきたい。

## 中央区

### <第1部 議会報告>

○市民病院決算について、このままの赤字決算が続くと4～5年で破綻する可能性もあると思う。経営健全化に向けた改善を促すべき。

→委員会でも同様の指摘が出た。議会としても引き続き注視していく。

○古町のアーケード改修にあたって多額の補正予算が計上されている。これまでも多額の予算が投入されているが、他の商店街などの活性化も考えられるのではないか。

→今回の事業は国の補助金を活用して行う事業であるが、周辺地域と連携を図りながら賑わいの創出につながるよう進言していく。

○外国人誘客を進めていくにあたって、やみくもに呼ぶだけでなく、事業者や地域の受け入れ態勢も整えていくべき。

→案内板の多言語化や生活習慣の違いなどの周知をさらに進めていくよう提案していく。

○本市の女性防災士の数はどのくらいか。

→全体で250人いるところ女性は37人である。今後も女性の割合が増えるよう啓発を促していく。

○夜間高校の夜食代の補助を行うべき。  
→ご意見として承り議会でも検討していく。

## <第2部 意見交換>

○公設デイサービスの閉鎖が予定されているが現在の利用者、ニーズの把握はどうなっているのか。

→利用者の移行がスムーズに進み、ニーズの把握に努めるよう進言していく。

○民生委員・児童委員の高齢化、人材確保のための対策を行ってほしい。

→ご意見として承り議会でも検討していく。

○フレイルなどに対する具体的な施策を教えてほしい。

→健康寿命の延伸に向けて各区が地域特性に合わせた啓発、予防の取り組みを行っている。

○定年後の再任用職員の人件費が財政を圧迫しているのではないかと。

→ご意見として承る。

## 江南区

### <第1部 議会報告>

○新潟市公民館条例の一部改正について、潟東地域実行計画に基づく施設廃止により条例から削除されるとのこと。地域住民の皆様が利用されていたようだが、どういうふうになるのか。

→建物自体はなくなるわけではなく、統合する。利用実態の報告はこの度の審査ではなく、決定したことに対して条例を改正した。

○特色ある区づくり予算が区自治協議会の各部会に配分されているが、予算の使い道が決まっていないことから何に使って良いのか分からず予算が余ると聞いている。しかし新潟市は予算がないと言っており、矛盾を感じるがどのようになっているのか。

→決算を審査した中で、使い残したものはあるけれども、予算が余ってしょうがないという声は聞こえてこなかった。各区役所に特色ある区づくり予算が配分されているが、区役所が自由に使える予算は少ないことから、もっと予算があればという話はよく聞く。

○区の議員さんが入っていないのはなぜか。江南区の議員から報告を聞けると思い来たが残念である。

→議員活動ではなく、議会として幅広く市民の皆さんから意見を聞くために、この議会報告会では、あえて同じ区の議員は入れないこととしている。

## <第2部 意見交換>

○第2層の支え合いのしくみづくり推進委員をやっている。老人クラブや自治会長などからアンケートを行って5年になるが、江南区は、本町通りや、丸湯、長湯などの郊外の地域では、近所同士が支え合い高齢者の送迎などしており、バスがない地域でも不便を感じないといったアンケート結果となっている。しかし、防災に関しては、10年前に自主防災組織をつくったが、他の自治会長が1年や2年で変わることから災害が起きた際に実際に機能するのか不安である。特に、50代、60代男性の引きこもりが懸念されている。地域の茶の間があるが、男性は、女性ばかり集まる場には行きにくいと感じることから、コミュニティ協議会で男性の居場所をつくる呼びかけをしている。男性の心理を理解した手法を、他の区ではどのようにされているのか聞きたい。

→引きこもりの方を地域に出すのは難しく、誰かが誘ってもなかなか一步を踏み出せないのが現実であるが、悩みを相談できない人もいることから、本当に助けてほしい人が声を上げられる社会環境を推進していかなければならない。また、定年退職後のエネルギーを有効活用できるようにコミュニティ協議会や自治会、ボランティア活動など自分の居場所をつくれるように根気強く声掛けをしていかなければならない。

→8050問題は深刻であり、引きこもっている方は、収入がなく親の年金で生活をしている現状で、今後生活ができなくなる側面があることから、地域の役割と行政の役割を明確にして課題に取り組んでいかなければならない。また、昔は地域のお節介おばちゃんがあったが現在はいない。現在では、ゴミ出しなど声をかけて、ささやかなお節介をしてくれる人が必要である。

→西区では地域の茶の間を昼は女性が中心で利用し、夜は男性が居酒屋風に茶の間を利用して長続きしている。また、西区は高齢者の独居老人に対して、区づくり予算の中で保健師が訪問する取り組みをしている。こうした成果がある事例を参考に全市的に取り組みをしていくことが重要である。

## 秋葉区

### <第1部 議会報告>

○新潟市市税条例一部改正「NPO法人への軽自動車環境性能割の免除規定を新たに設ける」とあるがどういうことなのか。

→基本的には国の改正を受けてその動きに合わせた形で、NPO法人にも合わせていくということ。

○請願「認知症・鬱病予防のための補聴器購入助成について」対象者を限定するのか。

→予防効果の高い層というものが医師会から示され、早期予防という観点を支持した。

○商店街環境整備事業について。古町七番町商店街振興組合が国の補助採択を受け実施する事業に対する補助額について。

→補助額の内訳を説明。

○市の一番の問題は財政危機。再建に向けてどう図っていくのか。

→市の示している集中改革プランの中では今後3年間で14億円の削減を見込んでいる。中身については事務事業の集約、休止、廃止、また職員定数の適正化などが盛り込まれ、157事業のうち132事業の見直しが図られていくとなっている。

### <第2部 意見交換>

○文化スポーツ部「水と土の芸術祭推進事業」について、新津美術館前に作られた芸術作品はいつ行っても中に入られず見られない状況で全く意味が無い。やめるべき。

→今後はやらないという機運がある。

○公共交通政策が早急に必要。秋葉区にはJRの駅が7か所ある。これらの駅を結節点に複数のバスが巡回するような仕組みづくりが必要。新潟交通だけでなく民間のバス会社とも契約するべき。住民バスは社会実験で運行し始めて2年。デマンド交通と合わせて引き続き検証していきたい。

○バスだけでなく出雲崎の乗り合いタクシーではタクシー券4万円分出して自由に利用していただくという住民目線の取り組みがある。健康寿命促進にも繋がる。

○老々介護、トリプル介護など、ケアしている人へのケア目線を持つべき。

○県知事、県議、市長は報酬カットを謳っているのになぜ市議はやらないのか。

<第1部 議会報告>

○福祉予算、例えばタクシーチケットの減額についても削減が決まっているものもあるということで、財政逼迫であっても福祉にまで手を伸ばすことはいかがなものか。

→福祉関連で交通費助成の削減などの説明を受けているが、今の段階で予算が確定したわけではない。2月の議会で予算を審議することになる。また福祉関係にまで事業見直しの手が伸びることについては、ご意見として承る。

○説明を聞いていると、頑張っているところに予算が配分されているという印象を受けた。私の団体では障がい者の通学を支援するバスを運行しているが、バスの老朽化で困っている。バスの入れ替えの補助をいただきたいのだが、陳情や請願という方法で進めればいいのか。

→そのような方法もあるし、地元議員に相談したり、区役所担当部局に相談したりする方法もあると思う。

○新潟市都市公園条例の一部改正で秋葉公園内に認定こども園の園舎建設を認めているが、不特定多数の公園利用者がいるので、園児の安全面での配慮を望む。

→すでにこの場所で実績のある園ということだが、ご意見として承る。

○防犯灯については、電気料の精算事務や維持管理で自治会の負担が小さくない。維持管理は市が行うべきものであるし、電気料金も市が負担すべきもので、議会でも取り上げてもらいたい。中央環状道路工事は南区が一番遅れている。また白根北中学校の通学路があるので、工事にあたっては、通学路変更などの対応が必要。新たな工業団地ができつつある中、企業が進出したあかつきには中央環状道路の利用が必須となることから整備も急ぐべき。

→中央環状道路の工事は西蒲区が最も遅れており、用地買収も未了箇所がある。ご意見として承る。

<第2部 意見交換>

○11月に区バスぐるりん号に車いすの子どもと乗車してみた。そのような人が乗車したためバスが遅れたと運転手が言っていたということでとても残念で悲しい話だ。南区では車いすごと乗車できる福祉タクシーがない。市からタクシーチケットを支給されても車いすタクシーがない、お年寄りも障がい者も同じように弱者だ。このあたりも何とかならないものか。

→地域の課題として承る。



○南区には高校が一つしかない。その白根高校も県が統廃合の対象としていると聞いている。県の問題であるが、地域の問題で市として県に存続の要望ができないものか。教育問題として市議からもしっかり考えてもらいたい。

→地域の課題として承る。

○白根高校を市立としてもいいのでは。区外からも生徒が多く通っており、また地域の行事などにも高校から参加するなど地域の一員であり、存続を願う。

→PTAからその問題を聞いている。ご意見として承る。

## 西 区

### <第1部 議会報告>

○市長とすまいるトークで集中改革プランの説明があった。県では財政状況が厳しいため知事等の報酬カットがされるが、新潟市はどうか。

→新潟市の財政状況は県ほど厳しくはない。市長等の特別職の報酬カットのみで一般職員までは及ばない。

○市の財政がこのように厳しくなったのは議会にも責任があるのではないか。

→ご意見として承り、議会内で共有する。

○請願「補聴器購入費助成について」執行部の考えは。

→今年度を目安に検討していくとのこと。

○商店街環境整備事業について、古町は新潟市の中心という考え方をやめた方がいいのではないか。

→旧大和跡地の再開発ビル「古町ルフル」が来春オープンする。地元の商店街では、これを契機に古町等の活性化を図ろうと国の補助事業に手を挙げ、アーケード改修や総合案内所の設置等を予定している。

○国家戦略特区の関係でローソンファームや農家レストランの取り組みは6次産業化なのか。地域内の様々な産業が連携することが本当の6次産業化だと思う。

○自治会所有の防犯灯が塩害で落下して人や物に損害を与える場合に備えて保険に加入した。補助対象の検討事項にしてもらいたい。

○防犯灯のLED化について、コミ協内に45の自治会があるが、LED化に無関心な自治会がある。補助率を上げるほかにLED化を推進する方法はないのか。

→ご意見を承り執行部に伝える。

○人口減少の問題について、今は未婚が多いが、昔は地域で「世話やき」がいた。未婚を解消するために、こうした役を行政が設けたらよいのでは。

→大事な問題であるので、議会としても取り組んでいきたい。

○防犯カメラ整備補助金について、設置はいつまでできるのか。

→令和元年度の申請時点で予算額をオーバーしてしまったので、西区の事件を踏まえ、申請があった全てを事業化するため補正予算化した。

○議会報告会の参加者が少ない。せっかく立派な資料を作成したのだから、区役所等に設置するなどして、広く市民に知らせた方がよいのではないのか。

## <第2部 意見交換>

○民生委員の改選時期だが、民生委員のなり手がなく、欠員が生じている。ボランティアでは限界なので、国の制度改革に向けて議会としても取り組んでもらいたい。

○団塊の世代の社会参加が求められる。次の時代に希望が持てる取り組みが必要である。

○今は65歳といっても現役である。70歳以上を「高齢者」とするなど、定義を変えることが必要だと思う。

## 西蒲区

## <第1部 議会報告>

○陳情「普天間基地移設問題の意見書提出」はなぜ不採択になったのか。また、陳情の内容で妥当でない部分があるために不採択としたのであれば、議会で修正して採択すべきではなかったのか。

→国民的議論は必要であるが、外交、国防に資する政府の専権事項であるため不採択とした。また、陳情の内容を議会で修正することはできない。

○陳情「新潟市の財政健全化について」はなぜ不採択になったのか。

→表題を見ると妥当と思われるかもしれないが、財政健全化は集中改革プランにおいて行われており、職員の給料削減などについては、今現在まだそこまでの状態ではないという判断をした。

## <第2部 意見交換>

○地域の茶の間に行けない人の対策が必要。茶の間でのボランティア高齢化も問題である。

→高齢者訪問は保健師が行くなど各区で対応している。

○区バスを含めた、きめ細やかな公共交通の整備が必要。

→地域の要望を聞きながら対応していきたい。

○子どもが減り税収が減る中、お金を生み出す手立てが必要なのは。特に農業分野で若い人が参入したいと思う仕組みづくりを。

→本市農業も米以外の園芸へのシフトに力を入れており、補助金を出している。各区で工業団地の造成をしており、企業誘致を進めている。

○障がいがある方たちへの避難計画・防災計画はあるのか。障がい者が避難場所で生活がしやすくなるように工夫を。

→地域に防災マップを提供している。障がい者に対応した防災計画にしていきたい。

○なぜ高齢化を第2部のテーマに選んだのか

→本市では高齢化率が政令市でも高く、多くの皆さんの声を聞き、市政に反映をしたい。

○コミュニティ・スクールが始まるが現状は。

→新年度からモデル校が選定され本格的に始動していく。

○防犯カメラの設置について地域負担を無くしてほしいとの要望。

○議員がもっと多くの人たちの意見を聞く場をつくるべき。

→多くの市民の方が議会報告会に興味を持ってもらえるように工夫をしていく。

○区バスのあり方を検討すべき。(ジャンボタクシーの活用、増便し利便性の確保等)

→相乗りタクシーやジャンボタクシーを活用している地域もある。利便性とコスト面を考慮しながら、地域の公共交通の在り方を検討していく。